

第3回丹後管内二級河川流域治水協議会を開催しました

流域治水の推進に向け**大手川、野田川、竹野川、福田川、佐濃谷川及び川上谷川の流域治水プロジェクトを策定**しました。また、引き続き他の丹後管内二級河川流域についても流域治水プロジェクト策定に着手することとなりました。

○開催概要

日時	令和3年11月22日（水） 10:00~11:30
開催形式	Web開催（Zoom）
議事	(1) 流域治水プロジェクトの最終とりまとめについて (2) 今後の進め方について (3) 流域治水に係る最近の話題について

○出席者と主な意見

（宮津市 城崎市長）

大手川の改修により、近年の豪雨でも氾濫せず、流域の安心・安全に寄与している。一方、河口付近では、土砂による海域の閉塞対策が重要と考えている。今後も府と協働し、ハード・ソフト対策に取り組んでいきたい。

（京丹後市 中山市長）

流域治水プロジェクトにより各取組が面的・機能的に把握でき、防災・減災意識の向上につながる。また、流域治水をどうまちづくりへ活かすかを考えるきっかけにもなるので、今後、府などの積極的なPRに期待し、本市としても活用していきたい。

（伊根町 上山副町長(代理出席)）

野田川流域において流域治水プロジェクトが策定されることは、伊根町の生活基盤の強化につながる。次期流域治水プロジェクト策定対象に、平成29年台風18号で被災した筒川が選定された。策定により地域の安心・安全につながることを期待している。

（与謝野町 和田副町長(代理出席)）

野田川の河川改修や下流域の浚渫により地域の安心感が増した。今後、山林の多面的な機能の回復による流木対策、堰堤の土砂撤去など、下流への負担軽減効果が期待される対策についても、府の助言を得ながら対応したい。

（京都府丹後広域振興局地域連携・振興部 水嶋部長）

流域治水プロジェクトのロードマップに従って各機関の取組が着実に進んでいくことを期待している。これを契機に、ハード整備が進んでも、浸水等の危険性を確認することや適切な避難行動をとることの重要性を、改めて住民の皆様呼びかけていきたい。

（京都府丹後広域振興局農林商工部 宮田部長）

治山事業、森林整備事業の他、ため池の改修を行っており、防災重点農業用ため池は毎年点検している。ハード・ソフト両面で防災・減災対策を進めていくことで、各機関と連携して流域治水プロジェクトの取組を推進していきたい。

（京都府丹後広域振興局建設部 米田部長）

流域での雨水貯留は下流域の負担軽減になり、また、森林機能の維持・増進は流下を阻害する土砂の流出防止になる。様々な取組を連携して推進することは、浸水被害の軽減や、気候変動に伴う降雨パターンの多様化への対応につながるものと期待する。

（京都府港湾局港湾企画課 秋田課長(代理出席)）

小規模河川においても、近年の豪雨時には河口まで土砂流出があった。河口部の浚渫は非常に有効で、住民の皆様の安心感につながっていると認識している。土木事務所と連携しながら、浚渫を進めていきたい。

（京都府建設交通部 濱田部長）

各機関とも最初から最後まで熱心な議論があり、地域の方と連携を深める、あるいはまちづくりの設計思想に活かしていくなどの意見をいただいた。これらを念頭に置いて、今後ともご協力いただき、安全で暮らしやすいまちづくりを進めていきたい。



協議会の様子